

1. 検索エンジン対応

- Google等検索エンジンとの連携を強化します。
 - Google Scholarの現行インデキシングポリシーに準拠した運用とします（J-STAGE上の**すべての**抄録無し記事についてファーストページイメージの表示を適用）。（必要な作業等はJSTの負担で実施。）
[Google Scholarのポリシー]
<http://scholar.google.com/intl/en/scholar/publishers.html#policies>
[JSTの対応]（H25年度学協会意見交換会ご説明資料）
<https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/genkyo.pdf#PAGE=13>
 - Google web search等との連携強化のため、J-STAGEコンテンツへの検索エンジンによるクローリング制限(robots.txt設定)を大幅に緩和します。
- 内外の現況にかんがみ、J-STAGE登載ジャーナルコンテンツの内外におけるよりスムーズな発信・流通を促進するため、オプトイン・オプトアウト等によらない、プラットフォーム単位での連携への移行を検討します。

2. オープンアクセスへの対応（今後の基本方針）

- JSTは、イノベーションを駆動する科学技術・学術情報のオープンな流通を強く推奨
 - 「オープンアクセスに関するJSTの方針」(平成25年4月)
http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy_openaccess.pdf
 - JSTのファンディングによる研究成果については、**OAを義務化へ**(2014年3月13日 JST理事長)
 - 「誰もが研究成果を利用できるOAの環境確保は極めて重要。(中略)**文科省ではOA環境の充実の観点から科学研究費の補助金やJSTの学協会の取り組みの支援を行うこと**、NIIの各大学における取組に対する支援などの促進策に取り組んでいきたい。文科省は研究者の一層の理解を得るところ含めて、**一層のOAの促進に今後とも積極的に取り組んでいきたい。**」(2014年5月13日参議院 文部科学大臣答弁要約： <http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php>)
 - **J-STAGEは、各利用学協会様の積極的な参画により、本文情報をフリーで閲覧できる大規模電子ジャーナルプラットフォームとして国際的にも認知**

**J-STAGEは、オープンアクセス・
オープンサイエンスのインフラへ**

2. オープンアクセスへの対応（今後の基本方針）

- フリー公開の推奨
 - 現在J-STAGE新規誌においては、本文をフリー公開するジャーナルを優先的に採択中。認証等を利用する場合であっても、12ヶ月程度までを強く推奨

既ご利用誌においても、フリー公開範囲拡大のご検討をお願い申し上げます。

～しかし、フリーアクセス = オープンアクセス（OA）ではない～

オープンアクセスの定義(平成24年7月 『有川委員会』 ※)

- 学術情報をインターネットから無料で入手でき、**技術的・法的にできるだけ制約がなくアクセスできるようにすること**

(※平成24年7月 文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会(有川委員会)「学術情報の国際発信・流通強化に向けた基盤整備の充実について」より)

J-STAGEにおいても、コンテンツの流通促進のためにはさらに踏み込んだ対応が必要

2. オープンアクセスへの対応（今後の基本方針）

- フリー公開コンテンツのポリシー策定・浸透に向けて
 - J-STAGEでは、85%のジャーナルがフリー公開誌
 - しかし、フリージャーナルであっても、二次利用の扱い等、明確な公開ポリシーを定めている学協会様は相対的に少数の状況
 - 内外の閲覧者から、記事二次利用に係る明快な基準についての問い合わせが増加中（J-STAGEの使い勝手＝サービス品質にも直結）
 - フリーコンテンツについて、Creative Commonsライセンスに準拠するジャーナルプラットフォームが増加中

J-STAGE上のフリー公開コンテンツについて、Creative Commonsライセンス等を利用した、二次利用の扱いを含むポリシー明確化を強く推奨することを準備中です。当該ポリシーについては、学協会様において使い勝手のよい運用ドキュメントなどをまとめた「オープンアクセス・スタートキット（仮称）」を配布すること等を検討します。

The screenshot shows a list of journals with their Creative Commons licenses. Callouts point to specific entries:

- 記事利用についての問い合わせ対応から解放された！** (Released from inquiries about article usage!)
- 海外からのアクセスが増えた！** (Increased access from overseas!)
- 学会の公益性を担保！** (Guaranteeing the public interest of the association!)

Journal Title	License	Volume/Year
ence Journal	CC BY-NC-ND	A.P. Vol. 1 2002 - Vol. 13
t RESEARCH	CC BY-NC-ND	Vol. 1 2000 - Vol. 11
ectrophotography)	CC BY-NC-ND	Vol. 1 1925 - Vol. 17 1997
KKASHI (Electrophotoaraphy)	CC BY-NC-ND	Vol. 17 1979 - Vol. 37

※機能拡張として、ジャーナルごとに各記事にCCライセンス表示を行える機能を開発中（今夏リリース予定）

3. スケジュール（予定）

H26年度

H27年度～

Google対応



7月～8月

Google scholar対応作業実施



7月～9月

Google Web Search対応作業実施

その他検索
エンジン対応



方針検討・連携先調整



作業実施

OA対応



フリー公開推奨（実施中）



7月 J-STAGE機能拡張

(ccライセンスをジャーナルに表示可へ)



フリー公開ポリシー
方針検討・法律相談等

フリー公開ポリシー
運用開始

J-STAGEにおける今後のポリシーに関わる重要な観点も含まれますので、どうぞ皆様のご意見をお寄せください。